

## ◆ 今週のコメント

- ヘルパンギーナの定点当たり報告数は3.70(148例)と、先週から急増し、本年度で最も多くなっています。第25週(6月20日～26日)から過去5年平均値の約2倍の報告数となっており、今後の動向にご注意ください。年齢階級別では、1歳、2歳、4歳が各25例(16.9%)で、1歳～4歳で66.2%を占めています。
- 咽頭結膜熱の定点当たり報告数が0.68(27例)で、第24週(6月13日～19日)以降、連続して過去5年平均値を上回っています。年齢階級別では、4歳が6例(22.2%)と最も多くなっています。夏季に多く発生していますので、今後の動向にご注意ください。
- 流行性耳下腺炎の定点当たり報告数が0.68(27例)で、先週(0.20)から急増しています。年齢階級別では、1歳から14歳までの報告があり、3歳及び10歳から14歳が各5例(18.5%)と最も多くなっています。

## ◆ 今週のトピックス: <手足口病>

手足口病の定点当たり報告数は、9.88(395例)で、急増しています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- 二類:結核 1例(肺結核 1例, 肺外結核 なし, 潜在性結核感染者 なし), (喀痰塗抹陽性 1例)  
【1月以降の累積報告数 131例(肺結核 66例, 肺外結核 29例, 潜在性結核感染者 36例), (喀痰塗抹陽性 39例)】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点67, 小児科定点40, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.07	5
小児科 (降順5位まで)	① 手足口病	9.88	395
	② ヘルパンギーナ	3.70	148
	③ 感染性胃腸炎	2.35	94
	④ 水痘	0.85	34
	⑤ 咽頭結膜熱	0.68	27
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.68	27
眼科	流行性角結膜炎	0.80	8

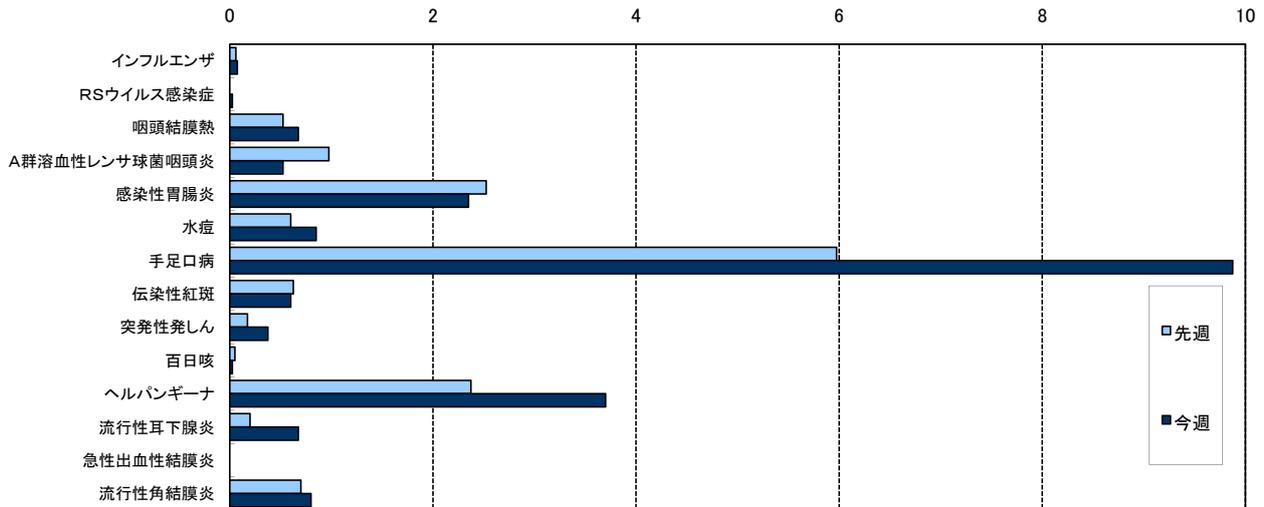
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <手足口病>

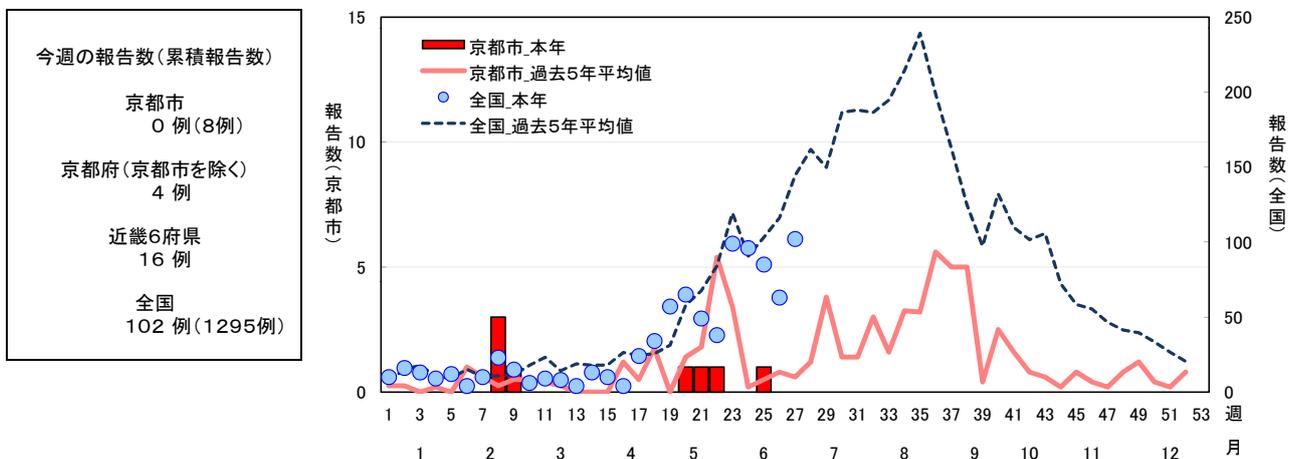
(注) 京都市のデータは、平成23年7月14日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第27週)と先週(第26週)の定点当たり報告数の比較

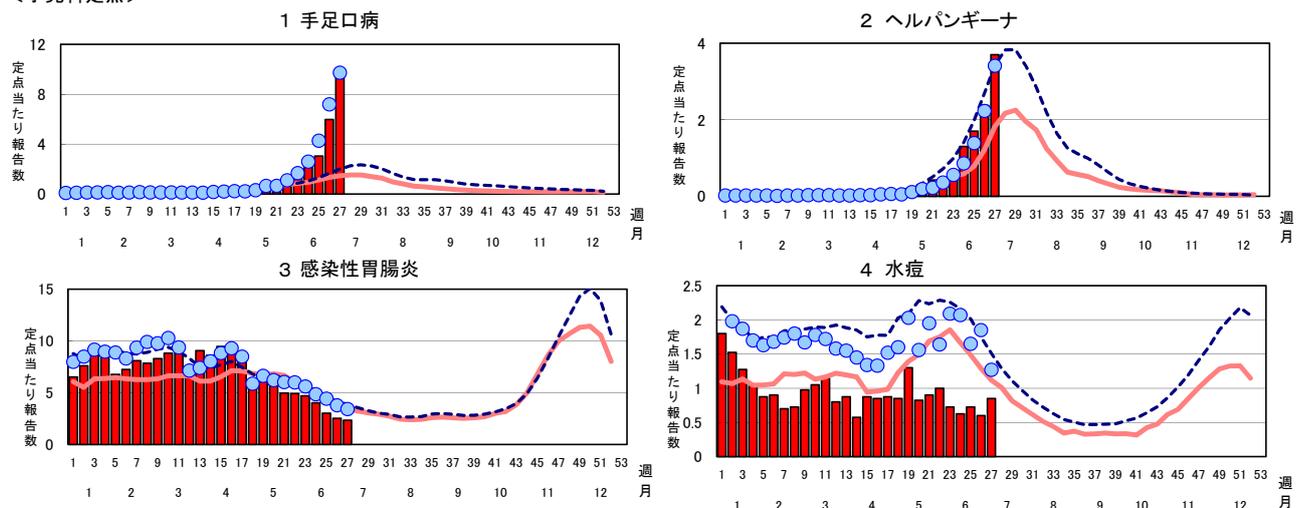


## 2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

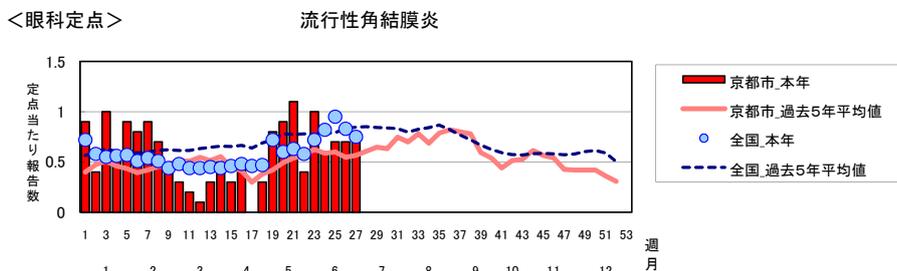


## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



## 第27週(7月4日～7月10日)トピックス: <手足口病>

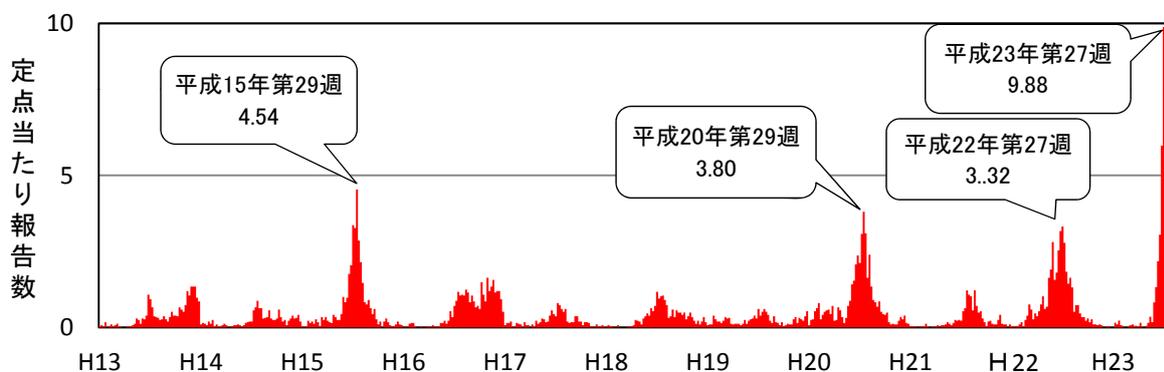
手足口病の定点当たり報告数は、9.88(395例)で、急増しています。過去10年間で最も報告数の多かった、平成15年第29週(定点当たり報告数 4.54)の2倍以上で、非常に大きな流行となっています。今後の動向にご注意ください。

年齢階級別では、1歳が109例(27.6%)と最も多く、以下、2歳 77例(19.5%)、0歳 54例(13.7%)となっており、0歳～2歳で60.8%を占めています。

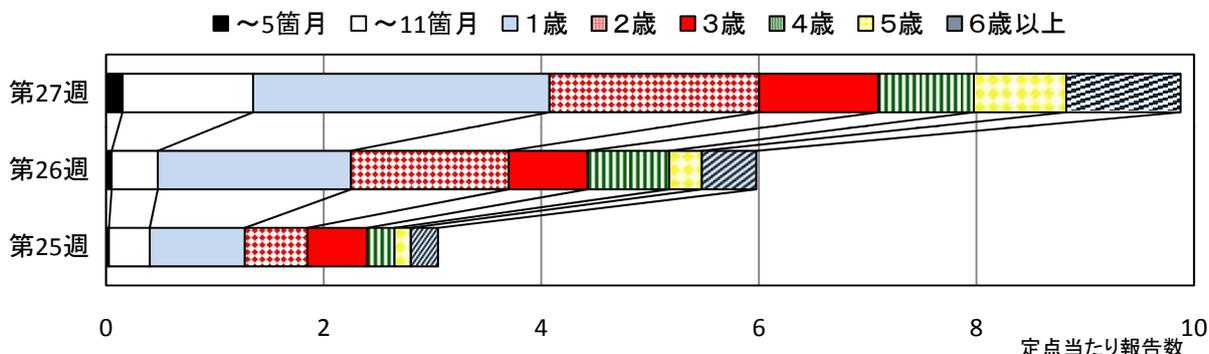
行政区別定点当たり報告数は、南区(36.33)が最も多く、以下、伏見区(15.29)、西京区(11.50)となっています。また、先週まで報告数の少なかった、上京区(9.33)、左京区(4.00)、中京区(6.00)でも急増しています。

本年、京都市衛生環境研究所で分離・検出した手足口病由来のウイルスは、すべてコクサッキーウイルスA6(CA6)で、4例となっています(7月15日現在)。全国でも、本年はCA6の検出が多く、約50%を占めています。

平成13年以降の定点当たり報告数の推移



年齢階級別定点当たり報告数の推移



行政区別定点当たり報告数の推移

